

日本とドイツは、ともに長い伝統と豊かな風土・文化を持ち、今日では経済大国として国際社会でもお互いに重要な役割を果たしています。そもそも日独の交流のきっかけは、1861年に当時の江戸幕府とプロイセンの間で締結された修好通商条約でした。まもなく日本では明治維新が起こり、ドイツはプロイセンによって統一され、同時期に近代国家として歩みだした両国はそれぞれの歴史を積み重ねてきました。

交流が始まって150年目を迎える2011年は「日独交流150周年」として、各種記念行事やシンポジウム、音楽公演などバラエティに富んだイベントが双方の国で行われる予定です。政治・経済はもちろん、科学・文化など多くの分野で深い関係にある日本とドイツは、交流年を機会にお互いの理解をさらに深めていくことが期待されています。そして、古くからの確固たる絆を深めるだけでなく、未来に向けて新たな絆を生みだしていくことでしょう。ぜひ本パンフレットを通じて、交流の歴史やドイツの魅力に触れてみてください。



# 150

Jahre Freundschaft



「日独交流150周年」名誉総裁  
クリスティアン・ヴルフ ドイツ連邦共和国大統領

ドイツと日本は外交関係開設150周年を共に祝います。両国が1861年に結んだ修好通商条約は、両国の極めて実り多い交流の基礎となりました。アジアで最初の近代国家となった日本には、ドイツから大きな影響がもたらされ、これは特に医学や法学などの分野で顕著でした。他方、日本の哲学、芸術、経営もドイツに深い痕跡をとどめており、世界的に名高い「バウハウス」の建築とデザインはその一例です。

ドイツと日本の人々の親しい結びつきは、過去150年の激動の歴史を経て続いてきました。交流は当初から実に多様でしたが、交流の密度と活発さには今日でも目を見はるべきものがあります。両国の交流は、ベルリン日独センターや東京のドイツ日本研究所といった交流のための機関に限られません。ドイツ国内に50以上ある独日協会、そしてほぼ同数の日本国内の日独協会は、人々を生活のあらゆる面で結びつける緊密なネットワークを形作っています。両国の自治体、学校、大学、学術機関、文化機関の多数の提携・協力も、交流を強固なものにしています。

両国の友情のように古くて良好な関係であっても、これからも育んでいくことが重要です。ですから私は、ドイツと日本が、民主主義と法の支配を掲げ価値観を共有するパートナーであるとの認識の下、記念の年2011年を共に祝うことをうれしく思います。そこでは過去を振り返るだけでなく、現在と未来の新たな協力の場を開拓していきたいと思っています。

「神々の美しき火花」が数多くの催しに降りそそぎ、日独両国の友好への情熱に火がともされることを願っています。あらゆる世代がともに担い、青少年が未来を活発に築いていくような友好が生まれるよう期待します。